

おうちでも、できることからやってみよう！

家庭でもたくさんの電気をつかいます。CO₂を削減するために、くらしの中で何ができるかを考えてみましょう。

- ✓ 節電のために「これならできるかな？」と思うことを探してみる
- ✓ それを1週間実践する！

コープデリグループでは、地球と私たち生きものに悪い影響を与える「温室効果ガス（特にCO₂）」「使い捨てプラスチック」「食品ロス」をなくすことをテーマに、「コープデリのエコ活」に取り組んでいます。



その電気、どうつくっている？ 再生可能エネルギー

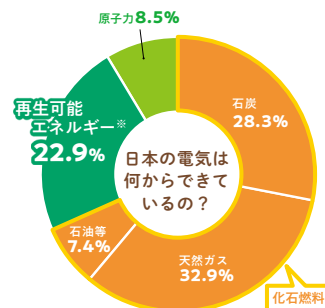
私たちのくらしに欠かせない電気。その電気をつくるため、多くの二酸化炭素(CO₂)が排出されています。コープは地球の未来を守るため、再生可能エネルギーを「つくる」「つかう」ことに取り組んでいます。



営業活動で使用する軽自動車もEVに入れ替えているほか、一部生協ではEVトラックも導入しています

コープは地球温暖化防止に取り組んでいます

CO₂の排出量を減らすためには、①省エネで電気を「つかう」量を減らすことが大切です。コープデリグループでは、宅配センターやお店の冷蔵庫・冷凍庫、照明・空調設備を省電力タイプのものへ順次切り替え、CO₂排出量の削減につなげています。ほかにも、②宅配センターの車両を、ガソリンなど化石燃料をつかうものから電気自動車(EV)に切り替えること、そして③再生可能エネルギーをつくる・つかうことを進めています。コープデリグループではこれらの取り組みを進め、「温室効果ガスを2030年に60%削減(2013年度比)」を目指します。



電気は何かからできている？

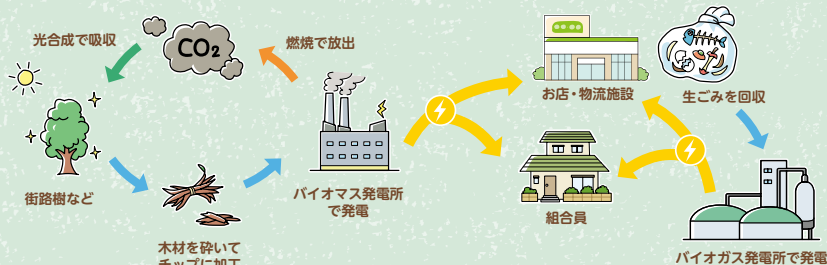
日本で発電している電気は、石炭・天然ガス・石油といった化石燃料をつかった発電が約7割を占めます。化石燃料をつかうことで排出されるCO₂は、地球温暖化の原因のひとつ。私たちは電気をつかって快適に暮らす一方で、地球温暖化の一因にもなっているのです。すでに夏の酷暑や記録的な豪雨などの異常気象が頻繁に発生していて、今すぐ対策することが必要です。

資源エネルギー庁「令和5年度(2023年度)エネルギー需給実績(確報)」より作成
※再生可能エネルギーには水力・太陽光・風力・地熱・バイオマスが含まれます



木材からつくる・つかう

街路樹をせん定した際に出る木材などを燃料に発電しています。木を燃やすとCO₂を排出しますが、その量は木が成長するために大気から取り込んだ分と同量になるため、大気中のCO₂を増加させることにはならないとされています。化石燃料由来ではなく、こうした再生可能エネルギーを利用することで、CO₂の排出量を減らしています。



生ごみからつくる・つかう

お店や物流施設で発生した野菜くずや売れ残った惣菜など、これまで捨てていた生ごみを、捨てずに専用施設に集めて微生物の力で発酵。メタンなどのバイオガスを発生させ、そのガスを燃料にして発電します。化石燃料ではなく生物由来の資源を利用することでCO₂排出量の削減につながるほか、食品ロスも削減しています。



太陽光でつくる・つかう

宅配センターやお店、物流施設の屋上などに太陽光発電設備を設置して発電。発電した電気を施設内でつかう場合もあります。2024年度は新たに11施設に発電設備を設置し、84事業所で発電しています。



屋上だけでなく、新たな試みとして物流施設の駐車場にも太陽光発電設備を設置しました

再生可能エネルギーの 電気を「つくる」「つかう」

美しい地球を100年後にも残すため、コープデリグループは太陽光などの「再生可能エネルギー」由来の電気を「つくる」「つかう」ことで、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。発電した電気は宅配センターやお店、物流施設などでつかっているほか、「コープデリでんき※」として組合員のお宅へも送電しています。

※コープデリグループの電気小売事業。コープデリにいがたを除く。「再生可能エネルギー100%メニュー」ご契約の方のみ

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標13:

気候変動に具体的な対策を
つながっています。

